B—97　細菌汚染布の洗浄・殺菌効果（第1報）

東京大医　　山本　俊一
東京家政学院大　○吉永　フミ

1.　洗たくが衛生面に寄与する点は一般に認められているが，付着した細菌がどの程度に洗い流され，また死滅するものであるか，その洗浄・殺菌効果を検討することを目的とし，今回は大腸菌における効果をみた。

2.　洗浄力試験に使用する鐘紡天児の20mm×20mmにブイヨン培養をした大腸菌を汚染し，細菌汚染布を調製する。

滅菌純水およびこれを用いて調製した家庭用洗剤（セッケンを含む），炭酸ソーダ，重炭酸ソーダの溶液について Launder-0-Meter 方式による洗浄試験を行なう。その洗浄廃液の菌数計算を行なって効果の判定をした。

3.　1)　粉末セッケン，無水炭酸ソーダの0.25%溶液では殺菌効果が見られた。これは試料中最も pH の高いものであるが pH 値の順位と菌数とは相関性がなかった。

2)　石油系中性合成洗剤は純水に比べ，はるかに菌数が多いところから洗剤は菌に対し洗浄性があるものと考えられる。

3)　弱アルカリ性合成洗剤は菌数が皆無またはごく少ない結果が得られた。これは殺菌，洗浄ともに利いていると考えられる。

4)　細菌汚染布の洗浄・殺菌効果と人工汚染布の洗浄

効果とは必ずしも平行しない。

5)　アルカリと洗浄剤の相乗効果は認められる。